

アゼルバイジャン共和国
「日本との長期連携を前提とした
農村における地域産業振興包括的支援
プログラム（フェーズ2）」に係る
提案型調査最終報告書
要約版

平成20年12月
（西暦2008年）

独立行政法人国際協力機構
（東・中央アジア部）

1. 調査概要

1

調査の背景

- ・エネルギー産業に依存する産業構造
→将来的経済成長への不安
- ・首都圏(バクー)と地方部との経済格差の拡大
→地方の衰退と政治的不安要素
- ・最大の雇用を抱える農業セクターの重要性
→安定した雇用確保、地域経済の発展



地域産業<農業>を核とする産業振興が必要

2

農業セクションの抱える課題

- 生産性の低い小規模農家の増大
- 輸入製品の増加と食品の国際競争の激化
- 地方部における若年労働力の流出
- 旧ソ連時代のインフラの老朽化
- 旧ソ連時代の販売網の崩壊
- 経営近代化(技術、人材、資金、施設)の重要性
- 流通近代化の遅れ(市場、輸送、マーケット開発)

3

政府の農業政策の方向性

第一フェーズの結果、アゼルバイジャン政府は以下のような具体的方向性を示している。

- ・農地所有制度改革
- ・法人化など農業経営形態の変化
- ・金融など個人経営に対する支援
- ・国際水準の加工業振興策の推進
- ・灌漑などのインフラ整備
- ・農業技術普及制度の拡充

4

本事業の目的

- 日本の経験に基づく、アゼルバイジャン政府農業、農村振興の支援
- とくにアゼルバイジャン地方部の参考となる北海道の事例を参考とした農業農村振興プログラムの提案
- プログラム実現にむけたスキームの形成

5

農業セクションの特色

- 野菜・果実、茶、畜産、絹等が主要生産物。
- 9つの気候からなる同国は多様な農産物の生産が可能。
- とくに野菜、果実は旧ソ連各国への輸出産物であった。
- ただし、素材供給が中心で付加価値が低い。

6

野菜、果樹、果実の クラスター化の可能性

- 希少性のある果樹、果実が豊富
- 旧ソ連時代からの輸出実績
- リンゴ、ナシなどのブランドが浸透
- ロシア、北欧、中央アジアでのニーズ
- バクーにおける富裕層の拡大
- 多様な加工食品への可能性
- 観光産業などの連携が可能

7

果樹・果物クラスター化の課題

- 品質向上〈食味、生産の安定性〉への対応
- 灌漑など農業生産基盤
- 生産性の確保〈効率化、集約化〉
- サプライチェーンやインフラの未整備
- 人材、中核組織、栽培技術
- 加工施設、保管輸送施設の老朽化

など

8

調査内容(フェーズ2)

- TOR1 事業モデルの策定及び農村振興プログラムの提案に必要な現地情報の追加調査及び確認
- TOR2 モデル地域における農村振興(農業・加工品)の可能性検討及び事業モデルの策定
- TOR3 日本との長期連携を前提とした農村振興プログラムの提案

9

TOR1 事業モデルの策定及び農村振興プログラムの提案に必要な現地情報の追加調査及び確認

- 1) 他ドナーの既存事業、政府プログラムの概要
- 2) 当該地域における関連企業の経営活動状況(金融[資金]、物流、インフラ、各種支援制度の活用状況等)
- 3) 対象マーケットのニーズ、流通メカニズム、商品供給状況の把握
- 4) フェーズ1調査で選定されたモデル地域における事業推進母体、関係組織等、及び域内・域外の事業支援体制

10

TOR2 モデル地域における農村振興(農業・加工品)の可能性検討及び事業モデルの策定

- 1)モデル地域における農村振興戦略の検討
- 2)モデル地域における農村振興策の提案及びパイロット事業実施にあたっての課題の検討

11

TOR3 日本との長期連携を前提とした農村振興プログラムの提案

- 1)日本との長期連携に向けた包括的協力プログラムの提案
- 2)フィードバックセミナーを通じた包括的協力プログラムに係る検討
- 3)円借款事業を活用した協カスキーム及び事業内容の提案(技術協力等との連携を含む)

12

調査モデル

第1フェーズの結果に基づき、以下の3つのモデルケースを想定し、その実現性を検討した。

- ①果樹・園芸生産モデル確立によるグバ地域の活性化(グバ及び周辺地域)
- ②「ワインルネッサンス」プロジェクト(シュマハ、イスマイリ等コーカサス山脈地域)
- ③新規商材開発モデル<一村一品から付加価値商品へ>

13

調査の視点

- 現地に適したモデル事業(地域参加)
- 必要条件の整理 (実施体制、現地受け皿、資金、計画など)
- ボトルネックの抽出⇒解決策の提案
- 中長期でのスキーム検討(シナリオ作り)

14

調査実施の留意事項

- 現地行政、民間との共同作業での検討
- 具体的イメージの共有
- 短期、中期、長期にわけた目標設定

15

調査のスケジュール

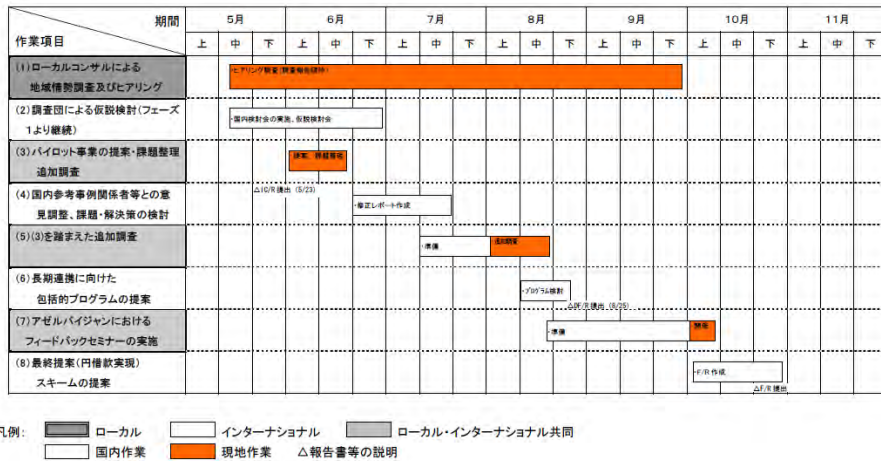
フェーズ1(2007年9月～2007年12月にて終了)
＜収穫期から加工期＞

フェーズ2(2008年5月～2008年12月)
＜栽培準備期～収穫期＞

- 1) 第1回現地調査(6月)
- 2) 第2回現地調査(8月)
- 3) 第3回現地調査(10月)＜フィードバックセミナー＞

16

調査工程表



17

調査団構成

団長: 和田正武 産業政策専門家

団員: 田村修二 地域産業育成・食品加工専門家

: 鈴木 卓 農業・農業経営専門家

: 富樫 巧 地域振興専門家

: セヴィンジ・マツマドヴァ 地域情勢専門家

18

2. 調査結果

19

農村における地域産業振興に関する課題の整理

- ・ 課題1. 地域における農産物の生産、加工、流通に関するインフラ、施設などの整備の必要性
- ・ 課題2. 地域で生産される製品の流通、輸送、販売、宣伝機能における生産農家のかかわりと協業化の検討
- ・ 課題3. 市場構造、ニーズの把握と商品開発能力の向上
- ・ 課題4. 農村における生産、加工、保存、包装などの新しい技術情報の普及、指導体制の構築
- ・ 課題5. 地域振興の中核となる組織、人材の育成

20

課題解決のための支援項目

- ・ 【インフラ整備】 地域における農産物の生産、加工、流通に関するインフラ、施設などの整備
- ・ 【金融支援】 生産者が中心となる地域における流通、輸送、販売、宣伝機能の拡充及び協業体制を構築するためのファイナンス
- ・ 【人材技術協力】 市場構造・ニーズの把握と商品開発能力の向上、生産・加工・保存・包装などのあたらしい技術情報の普及／指導體制の構築
- ・ 【プロジェクト管理】 モデル事業の実施と成果の普及のためのプロジェクトマネジメントの実施、現地研究機関などへの管理技術の伝承、特にリーダー及び受け皿育成に重点を置く。

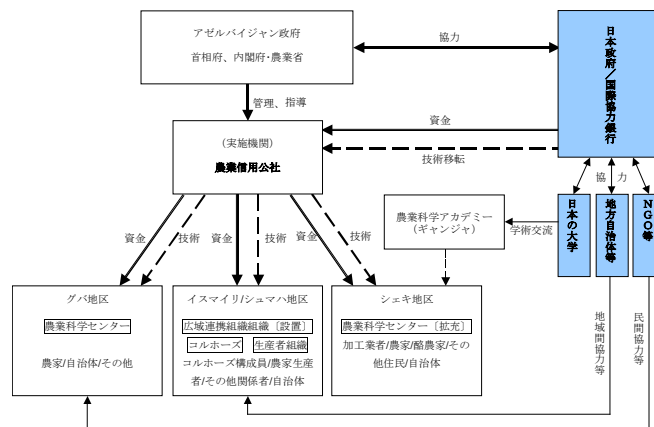
21

3. 日本からアゼルバイジャン への協カスキームの整理

22

- モデル地域：グバ地区、シュマハ・イスマイリ地区、シェキ地区（3地区）
- 実施機関：農業省管轄農業信用公社
- 協力機関：農業省管轄農業省農業科学センター（本部、グバ、シェキ）、農業アカデミー（ギャンジャ）

アゼルバイジャン地域振興スキームのイメージ図



具体的モデル事業①『産地の協力に基づく付加価値食品の生産と流通』(グバ地区)

段階	リンゴ	施設野菜
初期	小規模共同施設による経営効率化 技術指導・インフラ整備による品質向上	新商品に対応する施設準備 競争原理による技術向上
成長期	協力体制拡大による品質向上 地域に根ざした流通網整備	地域全体の技術レベルの向上 小規模共同施設の設置
発展期	リンゴ・施設野菜共用施設の運用 地域ブランドの形成による高付加価値化/マーケティングの実現	

25

具体的モデル事業②『広域連携による地域振興』(シュマハ・イスマイリ地区)

段階	イワノフカ (大型施設)	シュマハ (小規模)
初期	観光と連動した総合的地域戦略づくり	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイナリー事業モデル形成 ・「道の駅」事業の企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家による技術指導 ・同業者組合の形成 ・コンペティションに競争関係
成長期	観光事業の進展に伴うマーケティング戦略	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイナリー及び「道の駅」の建設 ・イワノフカブランドの形成 ・「道の駅」で販売する他の製品の開発 ・レストラン経営 	<ul style="list-style-type: none"> ・包装、品質管理などのレベルアップ ・地域ブランドの形成、認証制度の確立 ・同時に販売するチーズ、畜肉製品の開発
発展期・安定期	点⇒線⇒面へとインフラ整備の充実/観光需要拡大	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド戦略に基づく販路の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正規模の継続による品質安定 ・観光客に特化した商品供給

26

具体的モデル事業③

『一村一品から高付加価値作物生産を目指して』

a. 一村一品から高付加価値までの長期的展開イメージ

区分	内容
一村一品的发展 (対象：地域及び観光客)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地場産品の再認識／商品化 ・ 住民参加型商品開発 ・ 日本政府の「草の根無償」などを活用した簡単な加工施設の整備（モデル施設）
クラスターの発展 (対象：国内近隣諸国)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産官学連携による商品開発 ・ 企業連携や異業種交流の必要性 ・ 研究施設や生産施設、各種インフラ整備も必要 ・ 地域ブランド形成も検討
高付加価値商品開発 (対象：国際市場など)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際基準の品質管理、流通体制 ・ 内外の研究機関、企業との連携も検討 ・ 地域における企業育成（バイオベンチャー的要素）

27

b. シェキー村一品的商品開発の展開イメージ

区分	内容
初期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地場産品の再認識／商品化住民参加型商品開発 ・ 簡単な加工施設整備（モデル施設） ・ 地域の中核機関／同業者組合の育成 ・ 「道の駅」やアンテナショップを活用した販売戦略策定
成長期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「道の駅」など設計、建設 ・ 集荷、保管施設の近代化 ・ 農業科学センターの機能拡大 ・ 複数の加工施設拡大による商品多角化
発展期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質管理、流通体制の整備 ・ 研究機関と協力したクラスター化、バイオ事業化の検討

28

具体的な支援項目

支援項目	事業名
金融支援	協業化促進型マイクロクレジットの普及
	農業共済制度の導入
人材技術協力	モデル事業実施による OJT 型人材技術協力 (邦人コンサルタント派遣も含む)
	訪日研修による地域振興実務者育成
プロジェクト管理	邦人コンサルタント派遣
	イベント等普及啓発事業の実施

29

具体的支援項目①グバ地区『産地の協力に基づく付加価値食品の生産と流通』

支援項目	事業名
インフラ整備	(農業信用公社の指導による) 協業化促進マイクロクレジットを活用した民間インフラ整備
金融支援	(農業信用公社を経由する) 協業化促進マイクロクレジットの供与
人材技術協力	訪日研修による技術普及制度の普及
	邦人/農業信用公社コンサルタントによる技術支援 (流通、包装を含む)
プロジェクト管理	地域振興マスタープランの作成支援
	プロジェクト運営ノウハウの蓄積 (OJT) <リーダー/受け皿育成>
	農業信用公社と協力によるイベント等普及啓発事業の実施

30

具体的支援項目②シュマハ・イスマイリ地区 『広域連携による地域振興』

支援項目	事業名
インフラ整備	「道の駅」併設ワイナリーを核とした地域インフラ整備
	協業化促進マイクロクレジットを活用した小規模ワイナリー等民間インフラ整備
金融支援	(農業信用公社を経由する) 協業化促進マイクロクレジットの供与
人材技術協力	訪日研修による技術普及制度の普及 邦人／農業信用公社コンサルタントによる技術支援(流通、包装を含む)
プロジェクト管理	広域連携マスタープランの作成支援
	イワノフカ地区地域振興マスタープラン作成支援
	シュマハ地区地域振興マスタープラン作成支援
	プロジェクト運営ノウハウの蓄積(OJT) <リーダー／受け皿育成>
	農業信用公社と協力によるイベント等普及啓発事業の実施

31

具体的支援項目③シェキ地区『一村一品から高付加価値作物生産を目指して』

支援項目	事業名
インフラ整備	「道の駅」併設食品加工センターの設立
	乳製品集荷施設の設立(上記「道の駅」と併設の可能性もあり)
	果樹加工モデル施設の設立(上記「道の駅」と併設の可能性もあり)
金融支援	(農業信用公社を経由する) 協業化促進マイクロクレジットの供与
人材技術協力	訪日研修による技術普及制度の普及
	邦人／農業信用公社コンサルタントによる技術支援(流通、包装を含む)
	訪日研修、大学交流、OJTによる地域振興専門家育成 学術交流による高付加価値商品開発技術者育成
プロジェクト管理	地域振興マスタープラン作成支援
	高付加価値商品開発長期マスタープラン作成支援
	プロジェクト運営ノウハウの蓄積(OJT) <リーダー／受け皿育成>
	農業信用公社と協力によるイベント等普及啓発事業の実施

32

